

2017.12.18

株式会社オンネット・システムズ

■「オンネット統合業務（クラウド対応）」説明について

この度は、ホームページを見て頂き、ありがとうございます。おそらく読者様は、何らかの理由で、今お使いのシステムを更新しようと考えておられ、各社の情報を集めておられる事と思っています。

その更新理由として①会社特有な業務機能があり、その機能を現状システムより、改善し、更に業務遂行を効率化したいと考えておられる事でしょう。また②現状システムの不足機能はエクセルで実施しており、もう業務処理が限界に達したということもあるかもしれませんね。

「なぜ、そう思うか」については、これまでの「オンネット統合業務」の販売先のほとんどがそうであったからです（OS や機器更新の時期に合わせることも含んでいましたが）。

弊社は、読者様な様な立場の方に「オンネット統合業務」をお勧めしたく、以下のご説明をさせていただきます。内容を読んで頂き、ご連絡を頂ければ、直ぐに、実際画面（弊社での利用状況）をお見せすることができます。

弊社は、システムを売るだけの会社ではありません。「オンネット統合業務」の運用を通じて「アナタの会社の情報システム部門になりたい」と思っているのです。

（連絡先）

03-5807-5081, onnet@onnet.ne.jp まで

以下に、説明パンフレットの項目に合わせて、詳細説明を記述します。

弊社、開発メンバ 30 年の SE 経験からの視点で述べています。

●業務要件に合わせた個別対応、部分導入が可能

よく「システムに業務を適合させる」という一般論が出ます。本当でしょうか？筆者は 30 年以上のシステム開発経験がありますが、業務要件に合わせたカスタマイズ（業務適用化作業）は、どうしても必要になります。例えば機械製造の会社と化学品製造の会社は、同じ製造会社であってもシステムの内容は異なりました。また、同じ、化学品製造の会社でも商品構成や事業規模によりシステムは異なっていたのです。ですから私たちは、「システムに業務を適合させる」を額面通りに信じていません。おそらく、システム開発経験者以外の一般論だと思います。

ですから、「オンネット統合業務」では、「それぞれの会社の業務要件に合わせた個別対応を行う」ということです。ただ、イチからつくるという事ではありません。①2000 項目以上の DB 定義体、②500 本以上の業務機能プログラム、③メニュー、JOB スケジューラなどのツール類をベースに変更、機能追加をするという

ことです。ですから失敗のリスクは最小化できます。

「オンネット統合業務」には、販売、購買、在庫などの各機能があり、データ連動しています。しかし、これらを、同時に導入することは現実的に難しいと思います。既に販売はあるので、購買機能を追加するなどの段階的導入が現実的です。将来の最適化（全体機能統合）を考えながら、部分的に導入することが業務の混乱を最小限にできるからです。しかしその際に重要なことは、現状のデータ、マスタと連動させ、業務機能を連続化させることです。「オンネット統合業務」には、連携処理を作成するツールも準備しています。

●世界中どこからでも安全に利用

「オンネット統合業務」は、インターネット環境があれば、どこからでも利用できます。具体的には、①最初に最小プログラムをフォルダコピーします。②次にインターネットから最新プログラムをダウンロードします。これだけで、システムの稼働が出来ます。ダウンロード元は、会社ごとに用意したサーバ環境（サーバマシンとDB）です。最近では、これらのサーバ環境はクラウド（自社サーバも可能）となります。

接続後は複数の PC がサーバ（クラウド設置）を中心として星形（ハブ）接続することになります。それにより、例えば、本支店、事業所、工場などが全国に分散していたとしても一挙に全社ネットワーク環境が整うことになるのです。全社ネットワークが整えば、各支店、事業所、工場のヒト・モノ・カネが集中的に管理できます。

このことは、場所を問わず、どこからでもシステム利用ができることを意味します。サテライトオフィス、テレワーク、社員の地方採用など、昨今の働き方の多様化にも対応可能となります。例えば「受注登録は各支店で。月次請求管理は、本社で。あるいは、自宅オフィスから」ということが可能になります。セキュリティが担保できれば、オフィスの概念が変わってしまいます（当社も、本システムを利用していますが、出張先で業務を行っています。）。

これまで、専用線や高機能ルータ設備が必要だった頃にくらべると手軽さの点で隔世の感があります。

最後に安全性ですが、以下の点で、安全性が保てます。

- ①一般のブラウザを利用しません。サーバとは、独自プログラムで通信します。
- ②サーバとの通信は、SSL や VPN が選択可能です（盗聴の防止）。
- ③端末固有 NO で、端末を物理的に特定、制限できます。
- ④システム利用のログ（時刻と起動画面）を採取しています。時間外利用などを追跡できます。
- ⑤サーバ側に IP 制限を設けることができます（社内ネットワークからのみ許可するなど）

●統合マスタによるデータ連動の即時化

まず、マスタの種類ですが、得意先、商品、置き場、組織、負担部門、発注先などがあります。そのマスタ

が、販売、購買、在庫などの機能と結びついています（連動しています）。そして、受注データ、発注データ、入在庫データなどは、このマスタを基に作成されます。

これら、マスタ、データ間の連動は、他システムでありがちな、手動読み込みによるエクセル、CSV 連動ではありません。DB を介して即時連動されています。

では、先で述べた「部分導入（既存システムとの連動）の場合はどうなるか」については、即時連動は難しい可能性があります。この場合は、マスタ連動をバッチ処理で行う仕組みを講じます。その際、CSV、XML で接続することになりますが、手動読み込みではなく、実行の自動化を行います。

●DB 開示による自由なシステム連動

「オンネット統合業務」は、DB を開示します。ですので、利用者側で自由にシステムを拡張させることが可能です。

作成したプログラムは、①メニューに登録、②JOB スケジュールに登録できます。①、②により作成したプログラムは「オンネット統合業務」に統合されることになります。

他社では、「API 開放（DB アクセスのための小さなプログラム）」という方法でシステム拡張を支援している例を見受けます。しかし、当社では多くのデータ、マスタの API プログラムの提供は非常に難しいと考えています。極めて多くの API が必要になるからです。ですので、「DB 構造の開放」としているのです。

もし、必要であれば、プログラムソースの開示（画面単位で）も行います。

DB、プログラム開示により、自社開発、他のシステム会社との共同開発も可能になります。

●プログラム、データの自動配布

販売、購買、在庫などのシステムは多くのプログラムで構成されています。残念ながらこれらのプログラムが完全な状態で動作させることは現実的に難しいのです。どうしてもバグが含まれます。そこで、問題が発生したらすぐにプログラム修正する必要があります。その際活躍するのが「プログラム、データの自動配布」機能なのです。問題を修正して、直ぐに各 PC に配布するのです。

スマホアプリの様に、「変更の都度、審査があり数日の反映リードタイムがある」では、業務運用上問題が発生するでしょう。

本機能は、プログラムだけでなく、ファイルであれば、何でも配布可能です。ですので、規定類、エクセル台帳などもサーバ側から一元管理できることになります。

プログラムの自動配布は、分散システムの運用に於いて必須の機能です。

以上